

①効果が現れている案件の代表例

(注)本リストは、平成29年9月に公表したリストをベースに平成31年2月から令和元年6月にかけて外務省が改めて把握できる範囲で調査した情報に基づきます。今後新たな事実が判明した場合は記載の内容に変更があります。

草の根文化無償

国名	案件名	贈与契約(G/C)締結日	完了日	案件概要	供与限度値	被供与団体名	効果が現れている状況	成功要因・課題
アンゴラ	アンゴラ空手連盟空手器材整備計画	2018年2月15日	2018年3月28日	アンゴラ国内における空手の活性化に向けて活動する空手連盟への支援及び日本の伝統武道普及のため、毎年開催する空手全国大会や空手イベント等で使用する大会用器材を整備するもの。	¥3,294,500	アンゴラ空手連盟	本件実施前は、空手連盟は公式試合用マット等を他の団体からの借用している状況であったが、2018年11月に実施した第2回空手大使杯では、本件により整備された畳マット及び電光指示板を用いての開催を実現することができた。これにより、選手の土気を高めるだけでなく、指導者の空手普及への意欲もさらに高まっている。整備した器材は、空手連盟本部で管理されており、試合で使用する際には、連盟幹部が責任をもって運搬を行っている。すでに地方で行われている大会でも使用が確認されており、適切な使用が行われている。本件は、当地での対日理解の促進や日本の伝統武道普及に貢献するだけでなく、我が国の国際貢献策として2020年東京五輪に向けた国際協約の一つである「Sport for tomorrow」に合致するものである。2020年の東京五輪に空手が正式種目として採用されたモメンタムを活用し、日本のスポーツ分野における協力的貢献に資する。	大統領を始め、政府要人や外交団の中にも空手経験者が多数存在すること、空手が東京五輪種目として追加され注目を浴びていることから、この空手分野への支援は、政府要人を含む幅広い層にアピールする支援となった。また、平成29年度在外公館文化事業としての連携により、空手連盟と共催で空手大使杯を実施した。空手連盟本部が当館から近くに位置することもあり、空手連盟と連絡を密に行えたこと、青年スポーツ省やスポーツ行政関係者が参加した同大会のプログラムの中で供与式を実施できたことが成功要因である。
ドミニカ共和国	サントドミンゴ自治大学柔道競技整備計画	2016年2月26日	2017年12月8日	サントドミンゴ自治大学が、柔道本来の魅力を正しく伝え、柔道競技をより効果的に普及させることを目的として、柔道器材を整備するもの。	¥9,397,850	サントドミンゴ自治大学	本件により柔道器材の質が向上したことで、より高度な技の練習が可能となり、2018年にはサントドミンゴ自治大学の柔道部員男女各1名がドミニカ(共)代表としてパンアメリカ大会に出場して上位入賞を果たした他、練習生の段位が向上している(2018年度、6名が段位獲得及び昇段)。また、練習場内に扇風機やウォーターサーバーを設置したことで、より快適な練習環境が整い、熱中症の症状を訴える者がほとんどなくなった。このような改善が学生等の間で広まり、定期的に練習に訪れる部員や同施設を利用する青少年の柔道クラブも受講生の数が供与前から増加し、本件は柔道の普及にも貢献している。更に、利用者が我が国の支援に感謝し、器材を大切に扱い、率先して練習場の掃除を行うという機運が生まれ、精神面の向上及び対日理解の促進にも効果が現れている。	柔道の練習が安全に行えるように床等の改善や高温への対策を行い、より快適な練習環境が創出されたことが柔道のレベルアップ及び普及に寄与している。また、JICAの柔道ボランティア派遣による支援がレベルアップ及び利用者の増加に対する相乗効果を生んでいる。
ウルグアイ	ウルグアイ共和国大学情報コミュニケーション学部視覚メディア機材整備計画	2017年3月20日	2018年3月9日	ウルグアイ共和国大学情報コミュニケーション学部における視覚メディアスタジオ内の機材を整備し、より専門的な技術習得・研究を可能とし、同学部における視覚芸術分野分野における人材育成の多様化及び授業の質を向上させるもの。	¥9,850,080	ウルグアイ共和国大学情報コミュニケーション学部	2018年3月に供与が実施されて以降、同スタジオにおいて、学部生、研究生等向けのテレビ番組制作や視覚芸術分野における人材育成のための授業が行われている。実験「オンライン授業」という新しい番組が学生たちにより制作され、本年TV局における放送で検討されている。映画撮影ワークショップ、大学ラジオ局の収録、卒業生向けの生涯教育の映像制作の授業、他学部生も受講する視覚マルチメディア入門にも同スタジオが利用されている。	2017年に建築された同校の情報コミュニケーション学部の新校舎のスタジオに、必要な機材を確保して供与したことでより大いに効果が現れている。同供与により当国で最大の私立大学である共和国大学との協力関係強化に役立っており、ウルグアイの人材育成に貢献している。また、当館との文化事業の実施についても極めて積極的であり、広報、集客の面からも強い協力関係が構築されている。
エクアドル	テンポラソ県スポーツ連盟サブリーンスポーツ理学療法センター建設及び機材整備計画	2016年11月24日	2017年9月4日	リオパナマ市で理学療法を必要とする障害者を含めたスポーツ選手のためのリハビリセンター建設及びスポーツ・リハビリ機材を整備するもの。	¥9,582,720	テンポラソ県スポーツ連盟	本件支援により、サブリーンスポーツ・コンプレックスにおけるリハビリ治療体制が拡大し、障害者を含めたスポーツ選手のリハビリ治療への需要過多への対応が可能となった。実際に、本件支援以前の同施設の利用者数は2016年は1120名であったのに対し、2016年は4312名となり4倍近く増加した。	テンポラソ県は全国的にも元々障害者の数が多い等、リハビリ治療への需要が高いにも関わらず、リハビリ治療のための施設が十分であった現状に対して、同県において最も総合的かつ質の高いケアを提供する施設を建設し、ニーズに合致した支援を行ったことが成功要因である。
コスタリカ	コスタリカ・オリンピック委員会スポーツ器材整備計画	2017年1月19日	2018年2月21日	コスタリカ・オリンピック委員会が、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を目指し、強化を図るスポーツ分野である(1)体操、(2)シンクロナイズドスイミング、(3)卓球、(4)フェンシング、(5)ボクシングに関する競技器材を整備するもの。	¥9,981,360	コスタリカ・オリンピック委員会	プロジェクトによりコスタリカ・オリンピック委員会を通じてスポーツ器材を整備した(1)体操、(2)シンクロナイズドスイミング、(3)卓球、(4)フェンシング、(5)ボクシングのいずれの競技団体も、質の高い練習環境を提供することができ、選手の土気向上及び競技人口が増加に貢献した。また、国際大会も開催も可能となり、より積極的国際大会を誘致できるようになった。例えばボクシング・リングを整備したコスタリカ・ボクシング協会は、2018年10月に中米ボクシング大会を開催。本大会の開会式の同協会長のスピーチで、このボクシング・リングが日本政府の供与によるものであることを、内外のボクシング関係者等にアピールした。また、開会式に出場したエルナン・バルマススポーツ大臣、「自分は、ボクシング・フェンシング、卓球等の国際試合に出場しているが、どの大会でも日本政府による器材供与や人的貢献等を自にしている。日本政府のコスタリカ・スポーツ界への多大な貢献に改めて感謝する。」と述べた。	スポーツ器材を供与した競技団体のうち、フェンシング、卓球、体操の各競技団体にはJICAボランティアが活動しており、選手の育成のみならず、競技器材の正しい使用方法や維持管理についても指導してきたことが成功要因である。また、各競技団体が主催する国内・国際試合に大使館員が観戦に出席しながら、各競技団体と緊密な関係を構築するとともに、供与器材の使用法等についても注意深く指導していることも成功要因である。また大使館は、スポーツ交流を重点施策として積極的に推進し、コスタリカ・スポーツ界における大使館のプレゼンスは以前から非常に高かったが、本プロジェクトで器材供与式を各団体個別に5回も開催したことで、日本のプレゼンスが更に向上したことも成功要因の一つと考える。
コロンビア	カリ南部日本語・日本文化教室整備計画	2017年1月26日	2017年9月29日	コロンビア共和国のカリ市にあるコロンビア日系人協会は1966年に最初の日本語教育機関である「光園」を設置した。同教育機関は市の北部に位置し、近年住宅開発が広がる市の南部にも日本語学習希望者が増加したことを受け、本件は、同市南部に同協会が所有する武道場の増築を通して日本語・日本文化教室を8教室を設置し、日本語教育及び日本文化の普及活動を充実させるもの。	¥9,841,440	コロンビア日系人協会	カリ市に日本語教室を設置したことにより、同市南部地区の日本語学習希望者の数が増加した。またガラス張り日本武道場の3階にあるので、日本武道や日本文化(折紙、盆栽、生花、日本料理など)を学ぶ青少年、一般人なども日本語学習に興味をもち、また日本語学習者が日本武道や日本文化クラブに出席するなど、相乗効果となって、日本語のみならず、日本文化に興味を示す者が増加し、対日理解の促進及び親日家の醸成に役立っている。	同市南部地区には県立バジェ大学などの高等教育機関が10校、高等学校が12校あり、学生街であることが成功要因となっている。日本語教室のみでなく、日本武道クラスや日本文化クラスも併設していることから、若年層を対象にした日本文化紹介、日本語普及活動が活発に行われるようになった。2020年から日本語能力試験を実施する予定となっているところ、今後の日本語学習者数の増加が期待される。
ジンバブエ	ブラウヨ市ヒルサイド教員養成校体育館改修計画	2015年1月30日	2012年11月18日	ヒルサイド教員養成校の体育館の改修及び運動器具の整備を行うもの。	¥7,320,881	ヒルサイド教員養成校	改修した体育館は清潔に使用されており、供与機材は全て整備され使用されている。これらの供与品は、体育館の授業をはじめとして、日常的に使われている。また、教員養成校が授業外の時間に近隣住民に貸し出しを行い、近隣住民も利用している。	被供与団体である教員養成校が位置するブラウヨ市では、市全体でスポーツ活動が盛んであり、同校はブラウヨ市の全教員養成校の生徒を対象として、500人規模のスポーツ大会を毎年開催している。しかしながら、当時同校の体育館は老朽化が著しく、また必要な体育器具も不足していたことから、同校が当時必要としていたもの、それによって大きな相乗効果があることが確実であったものを供与したこと、また、体育科長がしっかりと管理していることも、成功の要因であると考えられる。また、同校にはJOCVの隊員が派遣されており、日本による協力を常にアピール出来ていることも大きな要因であると思料する。
チュニジア	屋内バスケットボール場建設計画	2016年2月25日	2016年12月21日	チュニジア共和国のチュニス市中心街に位置する屋内バスケットコート、を、屋内バスケットボール場として整備するもの。	¥9,792,580	アル・ヒラル チュニススポーツ協会	屋内競技場として整備したことにより、気象条件に関係なく、また、床の凹凸を無くしたことで怪我無く安心して利用できるところから、案件実施前と比較して使用環境が大幅に改善された。毎日の競技場利用スケジュールが定められ、平日はアム・ヒラル協会員及び他団体の活動、近隣の学校生徒の体育の授業、週末は同協会を含む複数の団体の練習試合に利用されており、十分な相乗効果が達成されている。	協会員のみならず近隣の学校生徒にも利用されている施設であったため、一定以上の相乗効果が保障されていたこと、屋内競技場の整備により、年間を通じた継続的な活動が可能となったこと、また、案件実施前に土地所有者であるチュニシ市に建設許可を申請したことに加え、同市やスポーツ省といった公的機関と共同で案件を実施したことが成功要因である。
モンゴル	ウランバートル市テンゲルテイ区第23番実験学校日本語学習環境改善計画	2018年3月7日	2018年11月20日	ウランバートル市所在の国立ウランバートル第23番学校において、既存施設を日本語学習者教室として改修し、併せて日本語学習機材を導入することで、生徒等が快適且つ効率的に日本語を学習できる環境を整備するもの。	¥7,482,420	テンゲルテイ区第23番実験学校	本件実施により2教室が整備されたことにより、日本語の授業が当該学校に定着し、学習環境が改善した。供与されたスマートボードの活用により授業の効率化につながり、配布資料が、デジタルで簡単に閲覧できるようになった。現在、生徒454名が日本語を履修しており、当初の計画通り効果が現れている。	日本語学習者の確実なニーズがあったことに加え、土気の高かった日本語教師4名が、本件を実施し学習環境が改善されたことで、さらに意欲が高まり、生徒の意欲向上にもつながっている。
ボスニア・ヘルツェゴビナ	サラエボ大学獣医学部微生物学及び化学実験教室改修計画	2016年2月10日	2017年6月30日	ボスニア・ヘルツェゴビナの獣医学部、獣医学微生物学、獣医学免疫学及び畜産物及びその加工品の安全研究等の分野における教育・人材育成及び研究発展のため、サラエボ大学獣医学部の微生物学及び化学のための実験教室を改修・整備するもの。	¥9,346,680	サラエボ大学獣医学部	実験教室は、免疫学、獣医学微生物学、牛乳及び乳製品の衛生学、獣医学微生物学の学科を中心に使用されている。現状は、微生物実験教室が10名程、化学実験教室が50名程により活用されており、設立以降、断続的にほぼ毎日利用がなされている。同学部は70年の歴史を持つものの、内戦により学校の設備は大きな損傷を受け、利用が困難なレベルとなっていた。今次日本の支援を受け、これらの施設が、同学部が最も誇ることのできる施設となり、また最も活用されている施設となっている。最先端の機材を利用し得られる知識はそうでない場合と比べて大きく、これらの機材を配備できたことによる学生への影響は大きく、これらの教室で学ぶことが目指す生徒達のモチベーションは著しく高まった。同学部新学部長は述べている。同学部は畜産関連の食品の品質、成分に関する分析、調査、研究を行っているボスニア唯一の機関であることから、酪農、畜産に従事している国民、ひいては当国民全体に効果が発生していると考えられる。	整備が急がれるべき、紛争により破壊された教育施設の修繕案件であったこと、当地市民に直結する乳製品の衛生学、獣医学微生物学を学ぶ施設としての支援であり本校での教育が多くの当地民に裨益する施設であったこと、また大学側の機材使用、維持管理体制がしるべく確立された点が成功要因である。

②かつて改善すべき点があったが、現在は効果が現れている・外部からの指摘事項が改善している案件

草の根文化無償

国名	案件名	贈与契約(G/C)締結日	完了日	案件概要	供与限度値	被供与団体名	問題・指摘の概要	原因	これまでの対応及び現状等	今後の対応・取組等
ギニアビサウ	ギニアビサウテレビ局機材整備計画(セネガル大)	2010年11月11日	2011年11月18日	テレビ局機材を整備するもの。	¥9,358,426	ギニアビサウ国立テレビ局	調達機材に不備(故障)がある。	納品された機材の一部に不備(故障)がある。	被供与団体からの本件完了の最終報告書の提出後、2012年4月にクーデターが発生し、現地の政情不安や、ギニアビサウとの接触制限もあり、本件の実施状況が確認できなかった。2014年の各種選挙の平和的な実施を受け、経済協力の再開に向けた活動を開始し、その一環として2014年11月に在外公館員が訪視して実地の設置・稼働状況を視察したところ、一部の機材は稼働しているものの、当初の計画(新品の供与)と異なり一部の品目が中古で納品されたこと、故障して使用できないものがあることが判明した。在外公館は、被供与団体及び所管官庁である通信省に対して、これまで二国間政策協議等の機会に当初目的の効果が発現するよう申し入れた。被供与団体は、一部の品目が中古で納品されていた件について、関係者を刑事手巻するなどの措置を講じるとともに、資金不足という制約の中で不良機材の修理を行い、自動努力を行った。その甲斐あって、故障していた編集機材が使用可能になり、番組制作に幅が出るといった成果が出ている。	クーデター後、被供与団体は修理などの自動努力を行っており、機材は計画当初の耐用年数も問題なく迎える。被供与団体のみならず所管官庁等も巻き込み、再発防止策を含め検討する。

キューバ	スポーツ応用科学研究センター機材整備計画	2014年3月4日	2017年5月24日 (計画変更承認による完了)	スポーツ応用科学関連機材を整備するもの。	¥9,799,381	マヌエル・ファハド大学(スポーツ応用科学センター) ※2018年10月に「キューバ・スポーツ研究センター」に変更	一部機材未調達により案件が遅延している。	キューバでは、プロジェクトの開始には各省庁と調整しタムズオブレファレンスを締結する必要があるが、必要手続きの煩雑さによりその締結に時間がかかった。 一部機材について、当初予定していた機材調達先からの輸入が困難になり、機材調達目処が立たなかった。	早期案件完了に向け、在外公館として随時働きかけを行ってきたが、一部機材の確実な調達目処が立たなかったことから、購入機材内容を変更することになった。現在、内容を変更した上で購入したすべての機材は適切に管理・利用されており、2020年東京オリンピックに向けた選手の育成およびトレーニングが多数の競技で始められている。 なお、本件は提供団体下のスポーツ応用科学センターを供与機材の実施主体として進めていたが、所掌の移管により同センターが大学から独立し名称も変更したことに伴い、必要な手続きを経て提供団体の変更を行った。	キューバでは、体制上プロジェクトの実施承認まで多くの省庁の承認を得る必要があるが、執行計画の策定やフォローアップの頻度を増やす等の対策をとり得る限り早いプロジェクトの実施を目指す。また、機材供与プロジェクトに関しては、輸入品目の策定を十分に行い、国内で調達可能なものを優先にすることで、速やかなプロジェクト実施を目指す。
------	----------------------	-----------	-----------------------------	----------------------	------------	---	----------------------	---	---	--

